

デザインコンペ目指し 建築設計演習発表会

● 徳山高専 ●



発表する学生たち

住環境のアイデア次々に

周南市の徳山高専(平野千博校長)土木建築工学科の建築設計演習の発表会が七日、徳山駅ビル二階の市民交流センターで開かれ、五年生の七グループ約三十人が周南の各地区をモデルに「景観と人にやさしい住まい」のアイデアを提案した。この演習は九月に書類の予選、十一月に愛知県豊田市でプレゼンテーションなどの本選が開かれる全国高専デザインコンペティション2009 in豊田への応募を目指すもの。周南市卯の手の一級建築士、石丸和広さんが指導して四月から学生が市内や光市、平生町な

どの都市と農村が共生するエリアを選んで住宅群を計画した。この日は速玉町の一級建築士、村越千幸子さん、岡村洋道市都市政策課長補佐、兼崎浩佳市建築指導課建築審査担当主幹、平野校長が審査員を務め、各グループがプレゼンテーションをした。西山翔太郎君ら四人のデザインは須々万の飛龍八幡宮を軸に畑が京都の条里制のように並ぶもので、農業の体験に来た人が宿泊や休憩ができるように点在する家は土間や縁側を広く取り、昔ながらの家屋の良さを強調していた。

最も評価が高かったのは磯村和樹君らが提案した金剛山の自然と景色を生かした住宅群。家々は徒歩専用の道でつながり、都市部との境には公園を設けて住人が集まるコミュニティハウスや子どもには秘密基地のようなツリーハウスもある。テーマに据えた「つながり」を具体的にイメージさせ、審査員からも「ぜひ見てみたい」という声があがった。石丸さんは学生たちに「厳しい意見ももらったが、二、三十年後には皆さんの大胆な考え方が当たり前になっているかもしれないのだから、さらに掘り下げてほしい」と呼びかけていた。